第 20 講　明治時代Ⅲ

1　条約改正

①改正の目的

あ　最恵国待遇（さいけいこくたいぐう）の相互平等化　（和親条約第９条）

い　**治外法権〔領事裁判制度〕の撤廃　（修好通商条約第６条）**

う　**関税自主権の回復　（修好通商条約第４条）**

---

②岩倉具視（ともみ）　(1871 年～73 年，右大臣）

A　**目的**

条約改正の予備交渉と欧米諸国の視察。

B　経過

1871 年　**岩倉使節団**を派遣

1873 年　帰国後は内治（ないち）優先論を唱え留守政府の征韓論と対立

☆明治六年の政変。

C　**結果**

条約改正の予備交渉は失敗，欧米視察は一定の成果をあげる。

---

③寺島宗則（てらしまむねのり）　(1876 年～79 年，外務卿（きょう）)

A　**目的**

明治前期の財政危機(インフレ・輸入超過)を乗り切るため，**国別交渉による税権の回復をめざす。**

B　経過

1878 年，**アメリカとの間で税権回復交渉に成功**。しかし，**イギリス・ドイツなどの反対**や，ハートレー事件(イギリス商人のアヘン密輸に対する無罪判決)にともなう国内世論の反発により失敗。

C　**結果**

以後，法権回復の優先が世論となる。

---

④井上馨（かおる）　（1882年～87年，外務卿のち外務大臣）

A　**目的**

一括（いっかつ）交渉による法権の回復，税権の一部回復（輸入関税の引き上げ）。

B　経過

1882年～　予備会議を開始

1883年　東京日比谷（ひびや）に**鹿鳴館**（ろくめいかん）（**イギリス人コンドル**が設計）を建設

☆連日の舞踏会（ぶとうかい）・音楽会を中心とした，極端な**欧化主義政策**を推進（＝**鹿鳴館外交・鹿鳴館時代**）。

1886年５月　条約改正会議を開始

10月　**ノルマントン号事件**

☆紀伊半島沖における日本人搭乗の**イギリス船沈没事件**。当初，日本人乗客全員を見殺しにしたイギリス人船長の過失は問われず，**法権回復の必要性を痛感**。妥協（だきょう）的な井上案への反対の声が高まる。

民権派，**星亨**（ほしとおる）（のち**後藤象二郎**）を中心に**大同団結運動**を開始

1887年　条約改正の代償として，**外国人判事の任用・外国人の内地雑居・法典予約（欧米同様の法典整備）**を秘密裡（り）に容認。

９月　暴露（ばくろ）された極端な欧化主義政策に対し，政府内外から批判が集中。井上外相は辞任に追い込まれる。

☆政府内⇒ボアソナード（法律顧問），谷干城（たてき）（農商務大臣）

☆政府外⇒民権派・国権派

10月　民権派，**三大事件建白運動**を開始

C　**結果**

条約改正会議は無期延期となる。

---

⑤大隈重信　（1888年～89年，外務大臣）

A　**目的**

条約改正に好意的な国を優先した**国別秘密交渉による法権の回復**と税権の一部回復。

B　経過

条約正文（せいぶん）以外の約束として**外国人判事任用を大審院に限る**こと以外は井上案をほぼ踏襲（とうしゅう）し，メキシコ・アメリカ・ドイツ・ロシアの同意を得る。

↓↓↓

秘密の大隈案が，イギリスの『**ロンドン＝タイムズ**』紙に暴露（ばくろ）され，世論が沸騰（ふっとう）。民権派・国権派が連合して反対。

☆外国人判事任用は，憲法違反としても問題化（枢密院議長伊藤博文が非難）。

↓↓↓

1889年，憤激した**玄洋社**（頭山満（とうやまみつる）を中心とした九州の国家主義団体）の青年来島恒喜（くるしまつねき）が，大隈外相を爆弾で襲撃。

↓↓↓

黒田清隆内閣は総辞職。右足を失う重傷を負った大隈外相ものちに辞任。

C　**結果**

条約改正交渉は再度中止。

---

⑥青木周蔵（しゅうぞう）　（1889年～91年，外務大臣）

A　目的

国別秘密交渉による法権回復と税権の一部回復。**最恵国待遇の相互平等化。**

B　経過

外国人判事を任用せず，外国人の内治雑居はほぼ認める。

↓↓↓

ロシアの東アジアへの南下（1891年，露仏（ろふつ）同盟締結と**シベリア鉄道**起工）を警戒した**イギリスが，ほぼ同意を示す。**

↓↓↓

大津事件（**1891年**，訪日中の**ロシア皇太子**〔のちのニコライ２世〕を警備中の巡査津田三蔵（つださんぞう）が暴行）により，**青木周蔵は外相を辞任。**

☆日露関係の悪化を恐れた**第一次松方正義内閣**は，罪刑法定（ざいけいほうてい）主義を無視して死刑判決を求めたが，**大審院長児島惟謙（こじまこれかた）**はこれに反対。示唆（しさ）を受けた大津地裁は無期徒刑（むきとけい）の判決を下し**司法権の独立**を護（まも）った。

C　**結果**

榎本武揚（えのもとたけあき）が外相となり（1891年～92年），中断された交渉を引き継ぐが，本格化させず。

---

⑦陸奥宗光（むつむねみつ）　（1893 年～ 94 年，外務大臣）

A　**目的**

法権の回復と税権の一部回復。**最恵国待遇の相互平等化。**

B　経過

青木案を踏襲。駐英公使となった青木周蔵の活躍で，**イギリスの同意を得る。**

☆第五･六議会では**対外硬派連合**が，政府の内地雑居案を軟弱外交と非難，現行条約励行（れいこう）を唱える。

C　**結果**

日清戦争直前，ロンドンで**日英通商航海条約**（1894 年，第二次伊藤博文内閣）を締結し，**法権回復に成功。最恵国待遇の相互平等化も達成**し，他の列国とも同様の新条約を締結。

☆有効期間12年，５年後の**1899 年より発効**（青木周蔵外相）。**代償として外国人の内地雑居を認める。**

---

⑧小村寿太郎（こむらじゅたろう）（1908 年～ 11 年，外務大臣）

A　**目的**

税権の完全回復。

B　経過

日清・日露戦争の勝利により日本の国際的地位が上昇。列国の反対が少なくなった状態で，新条約満期を迎える。

↓↓↓

アメリカとの間で**改正日米通商航海条約**（1911 年，第二次桂太郎内閣）を締結。以後，他の列国とも新条約を締結。

C　**結果**

条約改正が達成され，日本は欧米列強と対等の地位を得る。

---

⑨改正成功の要因

あ　近代産業の発達による国力の充実

い　**日清・日露戦争の勝利による国際的地位の向上**

う　欧米同様の**法典の整備**

え　改正事業が国民的要望に支えられていた

２　朝鮮問題

開国後の貿易開始による品不足・物価高が招いた，朝鮮民衆の窮乏と兵士の不満を全体的背景とする。

①壬午軍乱〔壬午事変〕(1882年)

A　背景

日朝修好条規締結（1876年）後の，**親日的開国派**である**閔妃**（国王高宗の妃）と**親清的保守派**である**大院君**（国王の父）との対立。

B　経過

政権を掌握する閔妃一派が，日本にならい洋式軍隊整備に着手。

↓↓↓

大院君一派，旧式軍隊と結び軍事クーデタを決行（1882年）

↓↓↓

民衆も呼応し，首都漢城の日本公使館を焼打ち。日本人軍事顧問らを殺害し，政権を一時的に掌握。

↓↓↓

日本は猛烈に抗議し軍隊を派遣。清国も宗主権を主張して出兵，反乱を鎮圧。

☆その後，清は大院君を天津に拘禁。

C　結果

日朝間で**済物浦条約**を締結（1882年）。朝鮮側（閔妃一派）が謝罪，日本は賠償金・公使館守備兵駐留権を獲得した。

↓↓↓

しかし，清国が宗主権強化をはかり朝鮮政府に接近。**閔妃一派は親清派へと政策を転換**し，日本の勢力は大きく後退した。

---

②甲申事変（1884年）

A　背景

壬午軍乱後，**親日的開国派**である**独立党**（**金玉均**・朴泳孝ら）と**親清的保守派**である**事大党**（**閔妃一派**）の対立。

B　経過

ベトナム支配をめぐる**清仏戦争**(1884年〜85年)における清国の不利を契機として，**日本公使館の支援を受けた独立党がクーデタを決行(1884年)**。

↓↓↓

清国軍の攻撃により鎮圧，日本公使館も焼き払われ，金玉均らは日本に亡命。

↓↓↓

日本は朝鮮に対し，猛烈に抗議。

C　結果

日朝間で**漢城条約**を締結(1885年)。朝鮮側(閔妃一派)が謝罪，日本が賠償金を獲得した。

↓↓↓

漢城における日清両国軍の対立が決定的となった。

---

③天津条約(1885年)

甲申事変(1884年)後の日清両国の武力衝突を避けるため締結。

A　調印

日本全権＝伊藤博文　　**清国全権＝李鴻章**

B　内容(全３条)

あ　**日清両国の朝鮮からの撤兵**

い　日清両国の朝鮮への軍事顧問の派遣停止

う　**日清両国の朝鮮への出兵時における事前の相互予告義務**

C　結果

あ　２回の事変を経て日本の朝鮮に対する影響は著しく減退

☆一方で清国の朝鮮進出は強化されたが，その後も大豆・米の大量買占めなど日本の経済的進出は続く。

い　清国・朝鮮に対する日本の世論は急速に険悪化

う　日本は清国戦に備え軍備拡張に全力を投入

☆鎮台にかわる**師団**の導入，徴兵令改正，**海軍軍令部**の設置など。

---

④国内世論の動向

日本人のアジア観が変化，アジア蔑視(べっし)・国権的風潮が強まる。

A　背景

あ　壬午軍乱・甲申事変による朝鮮における日本情勢の悪化

い　清仏戦争における清国の敗北

う　近代化において一歩先(さき)んじたという優越感

☆民権派も国権論的傾向へ。

B　経過

1885年　「**脱亜論**」(**福沢諭吉**が新聞『**時事新報**』に発表)

☆アジアの連帯を否定し，日本が欧米列強の一員になるべきこと(＝“**脱亜入欧**(だつあにゅうおう)”)を主張する国権論。

☆清国・朝鮮には武力で対処すべきと主張し，軍事的対決の気運を高めた。

大阪事件

☆**大井憲太郎**ら旧自由党左派による朝鮮改革計画

1886年　長崎清国水兵暴行事件

1889年～**防穀令**(ぼうこくれい)**事件**

☆朝鮮政府が凶作を理由に大豆などの穀物輸出を禁止，日本商人が打撃を受ける。

☆日本政府は**防穀令**の廃止と禁輸中の損害賠償を請求，1893年に最後通牒(つうちょう)を突きつけて実現したことから，朝鮮民衆の対日感情は極めて悪化。

1890年　**第一議会**における山県有朋(やまがたありとも)首相の“**主権線(国境)・利益線(朝鮮)**”演説

☆政府は軍備拡大予算案を議会に提出。

〈***Note***〉

３　日清戦争

①背景

A　**朝鮮支配をめぐる日清両国の対立**

B　日本の軍備拡張と清国との対立

---

②契機

1894年５月，**甲午農民戦争**〔**東学党の乱**〕の勃発

☆李朝の封建支配への反発から，日本や欧米の侵入に対する反対へと発展。
全琫準を中心とする東学の信徒が減税と排日を要求し，朝鮮半島南部を占領。

↓↓↓

鎮圧に失敗した朝鮮の閔妃政権が，清国に救援を要請。清国は大軍を派遣する一方で，天津条約の規定に従い日本に出兵を通知。

↓↓↓

日本も居留民保護を口実に出兵，農民軍は急ぎ朝鮮政府と和解。

↓↓↓

日本の朝鮮内政改革提案を清国が拒否，日清開戦は必至となる。

---

③開戦（直前に日英通商航海条約調印）

1894年７月25日，豊島沖の海戦⇒８月１日，宣戦布告

---

④経過

大本営を東京に設置し，開戦後に広島に移転。以後日本が圧倒的に優勢。

A　陸軍

平壌の戦い⇒遼東半島の大連・旅順占領⇒遼東半島完全占領

B　海軍

黄海の海戦⇒山東半島の威海衛攻撃により，清国の**北洋艦隊**は全滅。

---

⑤日本の勝因

A　日本

村田銃に統一された装備(陸軍)と高速俊敏(しゅんびん)な艦隊(海軍)，行き届いた訓練と規律，国論の統一，国際情勢の有利な展開(＝開戦直前に日英通商航海条約に調印したイギリスの好意的な態度)など。

B　清国

鉄砲の新旧混合(陸軍)と旧式の艦隊(海軍)，行き届かない訓練，国論の不統一，国際情勢の不利な展開など。

---

⑥結果⇒下関条約(しものせき)(1895 年)

A　調印

日本全権＝伊藤博文，陸奥宗光　　清国全権⇒李鴻章

B　内容

あ　**清国は朝鮮の独立を承認(＝清国は宗主権を放棄)**

い　**清国は遼東半島および台湾・澎湖(ほうこ)諸島を日本に割譲**

う　**清国は賠償金２億両(テール)〔約３億1000万円〕を日本に支払う**

え　清国は新たに**沙市(さし)・重慶(じゅうけい)・蘇州(そしゅう)・杭州(こうしゅう)**の４港を開市・開港

C　影響

あ　**朝鮮市場を確保，大陸進出の第一歩を踏み出す**

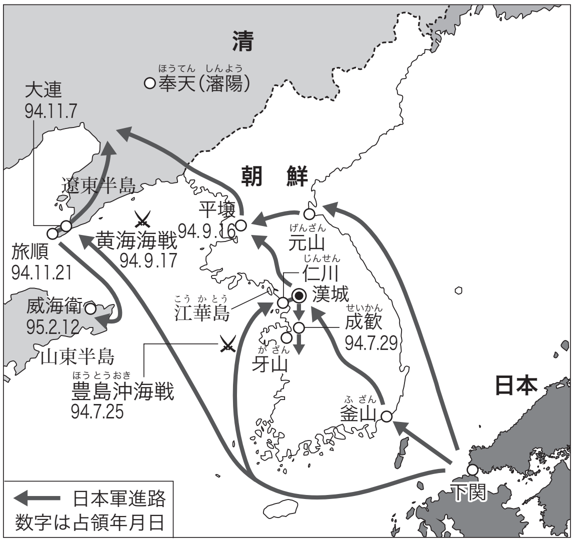
☆東アジア進出をめざすロシアの日本に対する警戒心は強まる。

い　**賠償金により金本位制が確立(1897年，貨幣法)**

う　**琉球の帰属問題が解決**

え　日清通商航海条約(1896年)の締結

☆日本優位の不平等条約，清国への経済的進出も可能となる。



４　三国干渉(1895年)

下関条約締結直後，ロシア・フランス・ドイツの３国が「朝鮮の独立を有名無実に為す」ことを理由に，**遼東半島の清国返還を日本に要求。**

①背景

Ａ　**ロシア**

満州(中国東北部)進出に，日本の遼東半島領有は脅威となるため。

Ｂ　フランス

ロシアとの同盟(1891年，露仏同盟)のため。

Ｃ　ドイツ

ロシアの関心をヨーロッパから逸らし，併せて中国分割の足場を得るため。

---

②経過

拒否・受諾・列国会議の三者を迷ったが，**還付金3000万両(約4500万円)**を代償に，やむなく受諾。

---

③結果

国民の反ロシア意識が高揚。以後は「**臥薪嘗胆**」を標語に，軍備拡張を基調とする挙国一致の戦後経営にあたることとなる。

☆ナショナリズム〔国家主義〕の高揚とアジア蔑視風潮の高まり。

---

④台湾・澎湖諸島の経営

1895年　**台湾総督府**を設置，初代総督に海軍の樺山資紀（かばやますけのり）を任命。

☆一部の漢族や島民〔高砂族（たかさごぞく）〔高山族（たかさんぞく）〕〕の頑強な反対（「台湾民主国」独立をはかる）を武力で鎮圧。

1896年　台湾総督府条例を制定

☆総督に陸海軍の大将・中将を任命，軍政を実施。

1897年　台湾総督府官制を制定

☆軍政を廃止し民政を実施。翌年以降は総督児玉源太郎（こだまげんたろう）・民政局長後藤新平（ごとうしんぺい）のもとで，**土地調査事業**が行われ，**台湾銀行**や台湾製糖会社が設立されるなど，産業の振興がはかられた。

☆しかし，貧農などの民衆は抵抗を続けたので，日本は徹底的に弾圧した。

５　藩閥と政党の妥協（だきょう）

日清戦争後の資本主義の成立により，選挙権をもち政党を後援する資本家・寄生地主の発言力が増大。

↓↓↓

対外緊張の中で日清戦後経営を進めて行かざるをえない政府は，政党勢力を無視できなくなる。

↓↓↓

政界進出・産業発展をめざす政党も政府と妥協し接近を開始。

①第二次伊藤博文内閣〔元勲（げんくん）内閣〕(1892 年～96 年)

日清戦争後，自由党との提携（ていけい）を進め，**板垣退助が内務大臣として入閣**(1896 年)。

☆同年，大隈重信は国民協会を除く対外硬派連合の５派を基盤として**進歩党**を結成し，自由党に対抗。

---

②第二次松方正義内閣〔松隈（しょうわい）内閣〕(1896 年～97 年)

進歩党との提携を進め，**大隈重信が外務大臣として入閣**(1896 年)。

☆松方は軍備拡張のため地租増徴を計画するが，これに反対した大隈は外相を辞任。政府と進歩党の提携は破（やぶ）れ，その後自由党との提携にも失敗した内閣は総辞職に追い込まれる。

---

③第三次伊藤博文内閣(1898 年)

総選挙で伸び悩んだ自由党との提携をあきらめ超然主義に戻り，軍備拡張のため地租増徴を計画したが，自由党・進歩党ともにこれを否決，議会解散に追い込まれた。

↓↓↓

これを契機に両党が合同，憲政党を結成。

☆衆議院に絶対多数をもつ政党が出現し議会運営の見通しを失った伊藤内閣は，憲政党の短期政権を見越して総辞職した。

---

④第一次大隈重信内閣〔隈板内閣〕（1898年）

首相兼外相に大隈重信，内相に板垣退助を擁する，**わが国初の政党内閣**。
☆**陸・海相以外の閣僚は，すべて憲政党員からなる。**

↓↓↓

しかし，旧進歩党系の**尾崎行雄文相**の**共和演説事件**による辞任を契機に，その後任人事をめぐり旧自由党系と旧進歩党系の対立が激化。

↓↓↓

憲政党は，**憲政党（旧自由党系，星亨ら）**と**憲政本党（旧進歩党系，大隈重信ら）**に分裂，内閣はわずか４カ月で瓦解。

---

⑤第二次山県有朋内閣（1898年～1900年）

憲政党（旧自由党）**と提携**。憲政本党（旧進歩党）の反対を抑え，**地租増徴案を可決**。しかし，**以後は政党勢力の削減，軍部・官僚の勢力拡大に政策を移行**。

1898年　**地租増徴**（3.3％）

1899年　**文官任用令を改正**

☆**政党員の官界進出を防ぐため，高級官僚の自由任用を原則廃止**。

☆同時に文官分限令・文官懲戒令を制定して官僚の身分保障を強化，政党の影響から官僚を守ろうとした。

1900年　**治安警察法**を公布

☆**従来の治安立法（集会条例など）の集大成**。労働運動や小作争議などの新しい社会運動をおもな取締り対象とする。

衆議院議員選挙法を改正

☆**直接国税10円以上**〔全人口の**2.2％**〕，被選挙人の納税資格を撤廃。無記名秘密選挙制・大選挙区制を採用。

軍部大臣現役武官制を実施

☆**現役の大将・中将以外は陸・海軍大臣に就任することができなくなり，内閣の組閣には軍部の支持が必要不可欠となった**。

↓↓↓

一連の政策に反発した**憲政党**（旧自由党）は，議会の円滑運営をはかり政党容認の考えをもつ**伊藤博文**と接近。**1900年**，解党して伊藤系官僚とともに**立憲政友会**を結成した（**初代総裁伊藤博文**）。

☆憤慨した**幸徳秋水**は，新聞『万朝報』に「**自由党を祭る文**」を発表。藩閥と政党の妥協を痛烈に批判した。

⑥第四次伊藤博文内閣（1900年～01年）

自らが総裁を務める立憲政友会を基礎として成立するが，北清（ほくしん）事変処理のための増税案を否決され退陣。

☆政党を否定する山県系軍人・官僚および貴族院の反発。

↓↓↓

軍部・官僚・貴族院勢力を背景とする山県閥の第一次**桂太郎**内閣が成立。かたや**立憲政友会を背景とする**伊藤閥の**西園寺公望**（さいおんじきんもち）と政界を二分（にぶん）する，**桂園**（けいえん）**時代**へと突入。

☆老齢の山県・伊藤らは政界の第一線から退き，後継首相の指名などで**非公式に天皇を補佐**する**元老**となり，内閣の背後から影響力を行使していった。

☆**元老**＝**伊藤博文・山県有朋・井上馨**・桂太郎（**長州**），**黒田清隆・松方正義・西郷従道**（つぐみち）**・大山巌**（いわお）（**薩摩**），西園寺公望（公家）の９名。

６　日露戦争前夜の国際関係

①列強の中国分割（東アジアの帝国主義時代）

日清戦争における**“眠れる獅子”**清国の敗北が刺激となる。

☆清国が列強に借款する代償として**租借**権を譲渡するという，資本輸出の形式をとった。

A　**日本（租借権なし）**

福建省の他国への不割譲を確約　（1898年）

B　**ドイツ**

膠州湾（山東半島）の99年租借　（1898年）

C　**ロシア**

旅順・大連（遼東半島）の25年租借　（1898年）

☆三国干渉によって返還させられた遼東半島の租借だけでなく，ハルビン・旅順間の鉄道敷設権（＝**東清鉄道**の一部）をも獲得したロシアに対し，日本国民は憤激。しかし政府は，韓国問題におけるロシア側の譲歩を期待して対露協調に努めた。

1895年　閔妃殺害事件

☆三国干渉後に再び台頭し親露政策をとる閔妃を，日本公使三浦梧楼らが殺害し，大院君を擁立した。

☆国王高宗はロシア公使館に逃れ親露政権を樹立。事件は列国の非難を浴びたので，かえって朝鮮における日本勢力は後退した。

1896年　小村・ウェーバー覚書（小村寿太郎駐朝公使）

☆閔妃殺害事件の事後処置として，日露の朝鮮駐留兵力の協定を結ぶ。

山県・ロバノフ協定（山県有朋内相）

☆日露間の朝鮮財政に対する共同援助協定。

1897年　朝鮮，国号を大韓帝国〔韓国〕と改める。

☆日本に対抗し，高宗は皇帝を名乗った。

1898年　西・ローゼン協定（西徳二郎外相）

☆日韓の商工関係を妨害しない条件で，ロシアの旅順・大連の租借を黙認した。

D　**イギリス**

九竜(きゅうりゅう)半島の99年・威海衛(いかいえい)の25年租借（1898年）

E　**フランス**

広州湾の99年租借　　　　　　　　　（1899年）

F　**アメリカ**

国務長官ジョン=ヘイの門戸(もんこ)開放宣言（1899年）

☆中国の「**門戸開放・機会均等**（1899年）・**領土保全**（1900年）」（＝極東三原則）を提案し，伝統政策のモンロー宣言〔モンロー主義〕（1823年～）を転換し，各国の勢力範囲内での通商の自由を要求した。

☆アメリカは1898年ハワイを正式に併合，次いでグアム・フィリピン・プエルトリコをも領有していた。

---

②北清事変(1900年)

A　背景

激化する列強の帝国主義的進出に対し，清国内における国民の排外運動が高揚。

B　経過

1899年～**義和団事件〔義和団の乱〕**

☆「**扶清滅洋**」を唱える排外主義団体**義和団**を中心とした民衆の反乱。

↓↓↓

1900年　山東省から発生した義和団が北京の列国公使館を包囲，清国政府(西太后政権)は鎮圧に難航。

↓↓↓

清国政府が対外方針を転換，義和団事件を利用して列国に宣戦。

↓↓↓

日本・ロシアを中心とする８カ国連合軍が北京に出兵。義和団を追い払い，清国政府を降伏させる。

☆日本軍はイギリスに“極東の憲兵”と評価？される。

☆**ロシア軍は鎮圧の名目で満州(中国東北部)を占領。**

C　結果

1901年　清国と列国との間で**北京議定書**を締結

☆清国政府は，巨額の賠償金支払い・公使館所在区域の治外法権・**軍隊〔公使館守備隊〕の北京駐留**を列国に承認。

③日英同盟協約（1902 年）

A　**ロシアの南下政策**⇒日本やイギリスの利益と衝突

あ　**北清事変を契機に満州を占領し独占的権益を清国に承認させ軍備を増強**

☆東清鉄道を延伸，旅順・大連を軍事基地化。

い　大韓帝国〔韓国〕にも野心をみせ親露政権を形成

B　日本の対応⇒**政府内部の意見対立**

あ　**日露協商論〔満韓交換論〕⇒伊藤博文**・井上馨**（元老）**ら

☆対露戦には軍事的・財政的準備が不十分なことを強調。

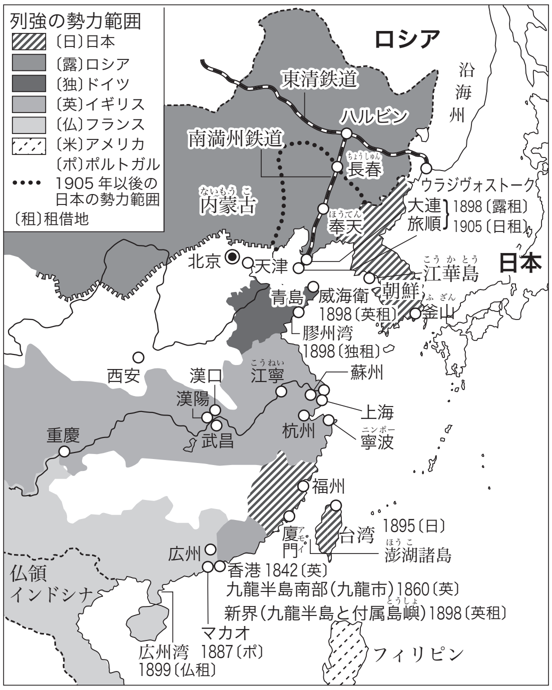
い　**日英同盟論〔対露開戦論〕⇒山県有朋（元老）**・桂太郎（首相）・小村寿太郎（外相）・林董（駐英公使）ら

☆ロシア勢力と対抗するためイギリスと結ぶことを強調。

↓↓↓

日英同盟論が優勢，日英同盟協約締結へ。

☆イギリスも日本の軍事力を利用してロシアと対抗する立場をとり，“光栄ある孤立”を放棄。



C　**日英同盟協約**の内容⇒ロシアを対象とした防御同盟，有効期限５年

あ　**清国・韓国（＝極東）における日英両国の利益保護の協同行動**

い　**利益保護のための他国との戦争における他の１国の厳正中立**

う　**他の第３国参戦の際の協同戦闘の義務**

D　日英同盟協約の意義

最強の海軍国と完全な対等条約を結び，実質的に欧米列強入りを果たす。

☆日本が国際政局に登場。列強相互の対立を利用しつつ対外的な勢力拡張を企てることとなる。

④国内世論の動向

A　**主戦論〔開戦論〕**⇒次第に多数となる

あ　**対露同志会**

近衛篤麿(貴族院議長)，頭山満らを中心とする国家主義団体。

い　**七博士意見書**(1903 年)

戸水寛人ら東京帝国大学などの七博士が桂太郎首相・小村寿太郎外相に提出した対露強硬論。

う　その他

徳富蘇峰の『国民新聞』や黒岩涙香の『万朝報』も主戦論を盛り上げた。

B　**反戦論・非戦論**・厭戦論

あ　**幸徳秋水・堺利彦**

社会主義者の立場から**新聞『万朝報』**で**反戦論**を展開するが，社長の**黒岩涙香**が経営悪化を理由に主戦論に転じたため退社。

☆1903 年，**平民社**を結成し**週刊『平民新聞』**を創刊。

い　**内村鑑三**

キリスト教人道主義の立場から**新聞『万朝報』**で**非戦論**を展開するが，社長の**黒岩涙香**が主戦論に転じたため退社。

う　**与謝野晶子**

1904 年，**雑誌『明星』**に“**君死にたまふこと勿れ**”で有名な厭戦詩「旅順口包囲軍の中にある弟を歎きて」を発表。ロマン主義的厭戦論を展開。

え　**大塚楠緒子**

1905 年，雑誌『太陽』に厭戦詩『**お百度詣で**』を発表。ロマン主義的厭戦論を展開。

７　日露戦争（1904年～05年）

①背景

A　日本の大陸進出政策とロシアの南下政策との対立

B　日本国内における主戦論〔開戦論〕の高揚（こうよう）

---

②開戦

1904年２月，日本軍が仁川（じんせん）沖と旅順のロシア艦隊を奇襲（きしゅう）⇒翌々日に宣戦布告

☆日本軍は満州に兵を進めるとともに，韓国に日韓議定書を強制して軍事行動の自由を確保し，戦局を有利に進めた。

☆また，日本はロシアの満州占領に反対するアメリカ・イギリス両国の経済的支援を得ることができた。

---

③経過

A　陸軍

遼陽（りょうよう）の会戦⇒沙河（さが）の会戦⇒**旅順占領**（1905年１月，第三軍司令官**乃木希典**（のぎまれすけ）が多数の兵を失った末に二〇三高地を攻略）⇒**奉天会戦**（３月，総司令官大山巖（いわお）が辛勝）

B　海軍

旅順口（こう）閉鎖⇒黄海（こうかい）の海戦⇒**日本海海戦**（**1905年**５月，連合艦隊司令長官**東郷平八郎**がヨーロッパから回航してきた**バルチック艦隊**に大勝）

↓↓↓

日本優位のうちに講和の機運が高まる

↓↓↓

もはやこれ以上戦線を拡大する余力のない日本は，**アメリカに調停を依頼**。日露の満州における勢力拡大を望まない**セオドア＝ローズヴェルト大統領**がそれに応じた。

あ　**日本**

戦費の欠乏（約17億円）。内国債・外国債・増税に頼る。

☆日露戦争は，機関銃や速射砲などの新兵器の登場により本格的な近代戦・物量戦となったため，兵器・弾薬・兵士などの補給が限界に達した。

い　**ロシア**

国内に革命の機運が増大（血の日曜日事件など）。戦争継続は困難。

---

④結果⇒ポーツマス条約を締結（1905年９月５日）

A　調印

日本全権　⇒小村寿太郎

ロシア全権⇒ウィッテ

B　内容

あ　**ロシアは韓国に対する日本の指導・監督権を全面的に承認**

い　**ロシアは旅順（りょじゅん）・大連（だいれん）の租借権，長春（ちょうしゅん）以南の鉄道**（東清（とうしん）鉄道の南部）**とその付属利権を譲渡**

☆北京条約で清国も承認。

う　ロシアは**北緯50度以南のサハリン〔樺太〕**と付属の諸島を割譲（かつじょう）

☆1907年に樺太庁を設置。

え　ロシアは**沿海州・カムチャッカの漁業権**を譲渡

C　国内の反応

日本の戦争継続能力について真相を知らされないままに，**賠償金は一切（いっさい）獲得できない**など，条約に対する不満から**日比谷焼打ち事件**が起こり（1905年，条約調印の日に開かれた講和反対国民大会が暴徒化），東京に**戒厳令（かいげんれい）**が出された。

☆翌年，第一次桂太郎内閣は総辞職。

D　影響

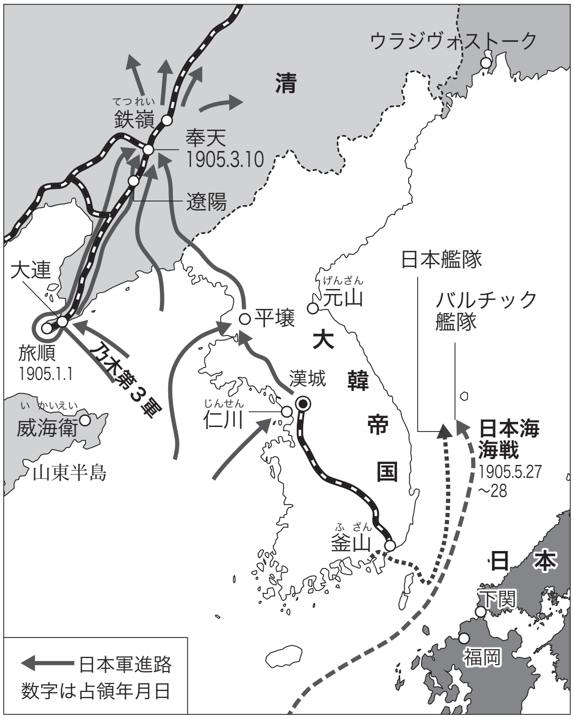
あ　韓国・満州への進出

い　資本主義のさらなる発達

☆軍拡と重工業の発達による。

う　白人不敗神話を打ち破り世界に衝撃を与える

☆**日本の国際的地位が向上**，アジア・ヨーロッパの民族運動を刺激。


ウラジヴォストーク
清
てつれい
鉄嶺
奉天
1905.3.10
遼陽
大連
旅順
1905.1.1
乃木第３軍
いかいえい
威海衛
山東半島
平壌
げんざん
元山
大
韓
帝
国
漢城
じんせん
仁川
日本艦隊
バルチック
艦隊
日本海
海戦
1905.5.27
~28
ふざん
釜山
日本
下関
福岡
日本軍進路
数字は占領年月日

８　日露戦争後の国際関係─帝国主義の道─

①韓国〔大韓帝国〕（日露戦争後，支配を強化し併合）

A　韓国支配の過程

1904年２月　**日韓議定書**（ぎていしょ）（日露開戦直後に締結）
☆韓国保全を名目に，日本軍隊の自由通行権･土地収用権を獲得。

８月　**第１次日韓協約**
☆日本政府の推薦する財政・外交顧問（こもん）を採用。重要案件については事前協議することを強制。

1905年７月　**桂・タフト協定**⇒非公式
☆**アメリカのフィリピン支配を認めるかわりに，日本の韓国保護国化を承認させる。**

８月　**第２次日英同盟協約**
☆**イギリスのインド支配を認めるかわりに，日本の韓国保護国化を承認させる。**

９月　**ポーツマス条約**
☆**ロシアに対し，日本の韓国に対する指導権・監督権を全面的に承認させる。**

11月　**第２次日韓協約〔日韓保護条約〕**
☆**韓国の外交権を剥奪（はくだつ）し，保護国化。**
☆**漢城（かんじょう）に統監府（とうかんふ）を設置，伊藤博文が初代統監となる。**

1907年６月　**ハーグ密使事件**
☆オランダのハーグで開催中の第２回万国（ばんこく）平和会議に韓国皇帝高宗（こうそう）が密使を送り独立回復を提訴するが，列国に無視される。

７月　**第３次日韓協約**
☆**皇帝高宗（こうそう）を退位させ内政権を掌握，秘密協定により韓国軍も解散。**
☆反日の**義兵運動**が元兵士たちの参加を得て高揚（こうよう），全国化。

1909年10月　**伊藤博文暗殺事件**
☆満州の**ハルビン駅頭**で韓国の民族運動家**安重根**（あんじゅうこん）に暗殺される。

1910年8月　**韓国併合条約（日本全権⇒寺内正毅）**

☆**韓国を植民地化，朝鮮と改称（首都漢城も京城と改称）。**

☆**京城に朝鮮総督府を設置，寺内正毅が初代総督となる。**

B　**朝鮮経営（1910年～45年）**

半官半民の国策会社である**東洋拓殖会社**〔東拓〕（1908年）が植民地経営を推進，**朝鮮銀行**（1911年）が中央銀行として金融面を支配。

☆朝鮮総督府は天皇に直属，総督には陸・海軍大将を任命。また，警察の要職は日本の憲兵が兼任した。

C　**朝鮮支配の変遷**

あ　第一段階（1910年～19年）⇒憲兵警察を中心とする武断政治

土地調査事業を強行（1910年～18年），その際に所有権不明確などを理由に広大な農地・山林が接収され，多数が小作人に転落。

☆有力日本人や東洋拓殖会社が巨大地主として君臨。困窮した人々の一部は，職を求め日本に移住するようになった。

い　第二段階（1919年～30年）⇒警察を中心とする**文化政治**

三・一運動〔万歳事件〕（1919年）を契機に政策を転換，親日派を育て同化政策を推進。

☆朝鮮総督の任用範囲も文官にまで拡大。しかし，以後も武官のみが就任した。

う　第三段階（1931年～45年）⇒“15年戦争”の物的・人的資源供給地

皇民化政策（神社参拝・日の丸掲揚・君が代斉唱・日本語の常用・日本史の学習・**創氏改名**などを強制）が進められる。

☆多数が日本へ強制連行される。⇒在日朝鮮人・韓国人問題

☆**従軍慰安婦**として戦場へ出た女性もあった。

②満州〔中国東北地方〕(日露戦争後，支配を強化)

1905年　旅順・大連を含む遼東半島南端の租借地を**関東州**とする

☆遼陽に関東総督府を設置。

1906年　**旅順**に**関東都督府**（ととくふ）を設置⇒関東総督府を改組（かいそ）

南満州鉄道株式会社〔満鉄〕を設立⇒**半官半民の国策会社**

☆本社を大連に置き，**長春〜旅順間**の旧東清鉄道および沿線の諸事業を経営。初代総裁は後藤新平。

1919年　関東都督府を廃止，**関東庁**(行政担当)と**関東軍**(軍事担当)に分割。

---

③アメリカ（日露戦争後，満州市場をめぐり関係が悪化）

A　満州問題

1905年　桂・ハリマン覚書

☆アメリカの鉄道企業家ハリマンによる，鉄道（長春～旅順間）の共同経営案を桂太郎首相が内約するが，小村寿太郎外相の反対により破棄。

1906年　南満州鉄道株式会社〔満鉄〕設立

1907年～元帥府（げんすいふ）会議において帝国国防方針を決定

☆アメリカを海軍の仮想敵国とする。

1908年　高平（たかひら）・ルート協定

☆太平洋・中国問題に関する協定。

1909年　**国務長官ノックスによる，列国に対する満鉄中立化提案。**

☆翌年，日本・ロシアは拒否。

1910年　アメリカ，5000万ドルの借款（しゃっかん）を清に与える。

☆英・仏・独を誘い，四カ国借款団を組織し“ドル外交”を開始。

B　在米移民問題

1890年代から，カリフォルニア州を中心に日本人移民排斥（はいせき）運動が発生。日露戦争のころには労働組合などを中心に活発に展開されるようになった。

☆日本人労働者の低賃金・ストライキ実行が原因。日露戦争後アメリカにも波及した黄禍論（こうかろん）の影響も強い。

1906年　サンフランシスコ学童排斥問題

☆日本人児童の公立学校への入学を拒否。

1907年～日米紳士協定（～08年）

☆ハワイを含む新たな移民希望者には，日本政府が旅券（パスポート）を発行しないことを約束。

1913年　カリフォルニア州における日本人の土地所有を禁止

1924年　排日移民法

☆日本人移民は入国できず締め出される。

④イギリス（日露戦争後，関係は次第に冷却）

1905年　第２次日英同盟協約

☆**適用範囲をインドまで拡大**，有効期限10年の攻守同盟。

1911年　第３次日英同盟協約

☆**アメリカの第三国適用を除外**，有効期限10年。

1923年　**四カ国条約（1921年締結）発効により破棄**

☆ワシントン会議の結果。

---

⑤ロシア　（日露戦争後，両国が接近）

４次にわたる秘密条項を含む**日露協約**により，中国大陸における両国の勢力範囲を相互に確認。

1907年　第１次日露協約

☆**日本＝南満州・韓国，ロシア＝北満州・外蒙古**（がいもうこ／そと）を勢力範囲とすることを相互に確認。

1910年　第２次日露協約

☆自国の満州における特殊利益擁護（ようご）のための自由行動を相互に承認

☆第三国（＝アメリカ）の満州進出を阻止するための共同行動を約束。

1912年　第３次日露協約

☆辛亥（しんがい）革命（1911年）を機に浮上した外蒙古独立問題に対応し，内蒙古（ないもうこ／うち）における両国利益範囲の東西分割を約束。

1916年　第４次日露協約〔日露同盟〕

☆条約範囲を全中国に拡大。第三国の中国支配を防ぎ，**極東での日露共同戦線結成を約束した軍事同盟。**

↓↓↓

1917年，ロシア革命によりロシア帝国が滅亡し破棄。

---

⑥中華民国（日露戦争後，辛亥革命により清が滅亡して成立）

A　革命の背景

あ　清朝の動揺

北清事変（1900年）の失敗・内政改革の失敗・満州族王朝の専制に対する漢族の反感などによる。

い　革命勢力の台頭

三民主義〔民族・民権・民生〕を唱える**孫文**の**中国同盟会**〔**中国革命同盟会**〕（1905年，東京で結成）などの革命勢力が清国内で台頭。

B　経過

1911年　**辛亥革命**

1912年１月　**中華民国の建国**を宣言

☆帰国した孫文が南京で臨時大総統となる。

国民党の成立

２月　**宣統帝**〔**溥儀**〕の退位により清朝が滅亡

３月　孫文にかわり軍閥を率いる**袁世凱**が北京で臨時大総統となる

４月　臨時政府を北京に移す

７月　袁世凱が国民党を弾圧したため孫文を中心に第二革命が勃発

☆袁世凱が鎮圧に成功，正式大総統となり国民党を解散させる。

1914年　孫文が日本に亡命し東京で秘密結社中華革命党を結成する

☆1919年に**中国国民党**となる。

1915年５月　日本が出した**二十一カ条の要求**の大部分を承認

12月　袁世凱の帝政復活宣言に対し第三革命が勃発

☆袁世凱は翌年に帝政復活を取り消し，まもなく病死。その後，列国の支援を受けた各地の軍閥政権の抗争により政治は混乱。

C　日本の対応

1911年の辛亥革命のころ，民間有志や陸軍が内政干渉を主張するが，列国の意向と国内の財政事情を考慮して，政府は不干渉の立場をとった。

☆1914年の第一次世界大戦開始後には，積極的干渉をはかる。

第 20 講　確認テスト

1　東京日比谷の鹿鳴館を設計した建築家とは？

①コンドル　②辰野金吾　③片山東熊　④ライト

2　1886年に沈没したノルマントン号は，どこの国の貨物船であったか？

①アメリカ　②イギリス　③ロシア　④フランス

3　1889年，右翼団体の青年の襲撃により右足に重傷を負った外務大臣とは？

①井上馨　②大隈重信　③青木周蔵　④陸奥宗光

4　1884年，独立党（金玉均ら）が事大党（閔妃一派）に仕掛けたクーデタを何というか？

①江華島事件　②壬午軍乱　③甲申事変　④東学党の乱

5　1885年に日中間で締結された条約とは？

①日清修好条規　②済物浦条約　③天津条約　④下関条約

6　1885年に「脱亜論」を唱えた人物とは？

①森有礼　②加藤弘之　③福沢諭吉　④中江兆民

7　1895年の下関条約で清国から割譲を受けた地として不適切なものを一つ選べ。

①遼東半島　②台湾　③澎湖諸島　④琉球王国

8　1895年の三国干渉後，反ロシア意識をあおる標語となったものは？

①富国強兵　②殖産興業　③脱亜入欧　④臥薪嘗胆

9　1896年に進歩党の大隈重信が外相として入閣した内閣とは？

①第一次松方正義内閣　②第二次伊藤博文内閣
③第二次松方正義内閣　④第三次伊藤博文内閣

10　1900年，立憲政友会の初代総裁となった人物とは？

①板垣退助　②星亨　③伊藤博文　④西園寺公望

11　1898年，山東半島の膠州湾を99年租借した国とは？

①ドイツ　②ロシア　③イギリス　④フランス

12　1910年，初代朝鮮総督となった人物とは？

①樺山資紀　②児玉源太郎　③伊藤博文　④寺内正毅

解答

1	①	2	②	3	②	4	③	5	③
6	③	7	④	8	④	9	③	10	③
11	①	12	④						